

## 名 誉 会 員



的 場 幸 雄 君

君は大正 13 年九州帝国大学工学部冶金科卒業後、東北帝国大学工学部金属工学科に講師として赴任、昭和 11 年同教授となり、昭和 37 年東北大学より名誉教授の称号をうけた。同年富士製鉄株式会社常務取締役副社長に就任、中央研究所所長を兼務し、昭和 44 年常任顧問に就任し、昭和 45 年 3 月、新日本製鉄株式会社常任顧問となり現在に至っている。

この間鉄鋼製錬の基礎反応に関する熱力学的研究に没頭し、今日の鉄鋼製錬の物理化学的研究の隆盛に貢献するところがきわめて大きく、特に 1) 製鉄製鋼反応に関する熱力学的研究、2) 高炉装入原料鉱石の物理化学的研究、3) 鉄鋼のガス分析法の確立、における君の業績は顕著である。昭和 38 年に本会より「溶鉄中の炭素の活量について」論文で俵論文賞を受賞したのをはじめ、関連団体から幾多の表彰をうけ、昭和 44 年 11 月には勲二等旭日大授章に叙勲せられた。また、学界、業界に広く、学生の教育、研究者の育成に尽瘁し、研究の指導に尽力されている。

本会に関しては昭和 45 年から 2 年間会長としてその発展に尽力された。特に昭和 45 年 9 月に開催した鉄鋼科学技術国際会議を主宰し、昭和 45 年秋 英国鉄鋼協会百年祭祝典に出席し、祝辞を述べ、国際親善に尽した。昭和 46 年 9 月、本会が派遣した北欧鉄鋼使節団の団長としてノルウェー、スウェーデン、フィンランド、およびデンマークを訪問し、技術交流と親善交歓に成果をあげ、また鉄鋼科学技術国際会議の開会式の席上、ラテンアメリカ鉄鋼協会名誉会員章を、昭和 45 年秋ドイツ鉄鋼協会年次総会において同会名誉会員章をうけた。

## 名 譽 会 員



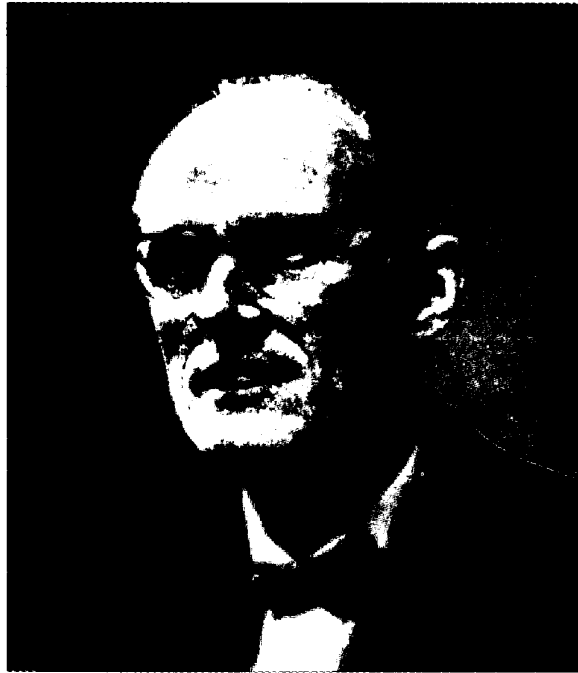
Hermann Th Brandi

1908年12月25日、ドイツのドルトムントで生れ、Aachen工科大学金属工学科に学び、1932年Berlin-Charlottenburg工科大学を優秀な成績で卒業した。卒業後、製鉄所にて研修後、英米両国を視察、1933年1月、Oesterreichische Alpine 鋳山会社 Donawitz 製鉄所、1934年4月 August Thyssen-Heütte 株式会社（以降 ATH と略す）Chemical-Technological Testing 研究所、1936年 ATH Meiderich 製鋼所に勤務し、1944年3月 ATH Hamborn 製鉄所長に就任した。1945年12月より戦争と公職追放により鉄鋼業を離れたが、1952年7月 Heuttenwerke Ruhrort-Meiderich 株式会社取締役、1953年幹部役員、1955年ATHが設立したPhoenix-Rheinrohr株式会社の幹部役員を歴任し、1965年5月ATHの幹部役員となり現在に至り、ATHの技術、設備に関して指導し全責任を負っている。

君は鉄鋼技術に関する博士であると同時に、1936年Leoben工科大学Leoben鋳山学部において鋳山博士を受けている。

またAachen工科大学同窓会会長、ドイツ鉄鋼協会副会長、Max-Plank協会、Max-Plank研究組合の評議員をはじめ、各種組合、団体の委員に就任し、広く鉄鋼に関する科学技術の発展に寄与し、技術家、実業家として高い業績を納めている。君の業績に対し、Aachenから名誉市民とRheinisch-Westfaelische工科大学から名誉博士の称号およびドイツ連邦共和国最優秀功労賞が授与されている。

## 名 誉 会 員



F. D. Richardson

1913年9月英国で生れ、1933年ロンドン大学の化学科を卒業、1936年物理化学で Ph. Dr. を取得した。1937年より2年間、英国国立奨学特別研究員として米国プリンストン大学で学んだ。1939年英国海軍予備義勇隊にはいり 1942年から4年間、各種兵器開発の Deputy Manager を歴任した。1946年 BISRA の化学研究主任に就任し、1950年にはロンドン大学インペリアルカレッジで Nuffield 研究グループを創立、高温における化学冶金の研究を指導した。1956年高温化学冶金の研究により、ロンドン大学より Dr. of Science の称号を受けた。1957年ロンドン大学の教授に就任し、金属製錬学を担当し現在にいたっている。君は金属製錬学科を Chemical Metallurgy および Process Engineering Metallurgy の研究センターとして確立し、冶金学の教育に関し化学冶金の重要性を喚起し、教育内容を発展させた。また金属製錬反応の熱力学と動力学に著じるしい業績をあげられた。

君の業績に対し、1955年、製鉄製鋼に関する高温化学反応の熱力学的特性に関する研究に対して、英国化学会、英国金属学会、英国化学工業会より Sir George Beilby 記念賞を授与され、英国鉄鋼協会より 1962年には名誉会員の称号を 1968年には Bessemer Gold Medal を授与された。また英国学士員の会員に選ばれている。

君は英国国内のみでなく、1963年米国の AIME Metallurgical Society の Charter Fellow に選ばれ、1964年には AIME の Howe 記念講演や Hatfield 記念講演を行ない、国内外で活躍された。